Takashima Toujyu Kai 会報

高島藤樹会

（題字は、竹脇曇卿先生によるものです）

No. 28
2022.1.18

発　行
NPO法人　高島藤樹会
〒520-1224
滋賀県高島市安曇川町上小川225-1
藤樹書院・良知館内
電話・FAX　0740（32）4156
http://takashima-tojukai.com/

「藤樹先生と易」

高島藤樹会理事　深川澄雄



四書五経（ししょごきょう）は、儒教の経書の中で特に重要とされる四書と五経の総称です。中江藤樹先生もこれを勉強されたと言われています。

四書五経―四書は『論語』『大学』『中庸』『孟子』、五経は『易経』『書経』『詩経』『礼記』『春秋』

その中の一つ易経を少し覗いてみようと思います。（ここでは、占いの八卦ではなく哲学です）



筮竹と算木カード
（藤樹記念館内）



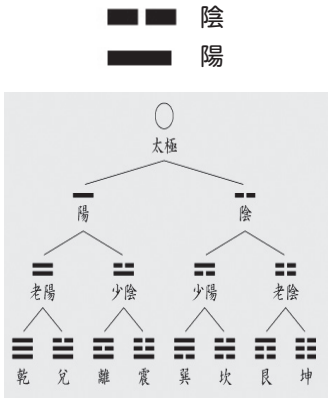
神龕欄間
（藤樹書院内）

藤樹書院を訪れますと、書院内の祭壇の中央には藤樹夫妻の神主（仏教でいう位牌に当たる）が祀られています。

その神主を容れた厨子様の容れ物は、神龕欄間（しんがんらんま）といい、その上部には、易卦が刻まれています。

また、藤樹記念館には、中江藤樹先生が作られ使われたであろう、筮竹（ぜいちく）（竹ひごのようなもの五十本）、算木（さんぎ）を模した六十四卦のカードが残されています。

易の基本的な考え方は、宇宙は陰陽の二元から成り立っておりその陰陽の組み合わせで八卦の基本形をつくり、その八卦を組み合わせたものが六十四卦あります。その六十四卦で森羅万象をみるものです。



先ほどの神龕欄間の上部に易経の卦の一つ「謙」の卦が刻まれています。

謙の卦は、上から、陰、陰、陰、陽、陰、陰。となっており、上三つ（上卦）がすべて「陰」で八卦の「地」を表し、下三つ（下卦）は三つの内上だけが「陽」あとは「陰」となっており、八卦の「山」を表します。その、上が「坤地」（外卦とも言います）で、下が「山」（内卦といいます）で、易経を開けますと、十五番目の「地山謙」となっております。



その解釈ですが、藤樹先生との関連性で読んでみます。

ここからは、私の考えです。

さて、「地山謙」という卦は、「謙虚で慎み深く」という意味ですが、もう少し深く見てみましょう。

六本の算木中五本が陰、一本が陽。この陽は藤樹先生を指し、陰は教えをうけている人達を指しているのではないでしょうか。それに、外卦の陰三本は書院以外の方々、内卦の陰二本が書院の中の方々と思われます。外部の方々も教えを請い求めて来られているが、教えられているのは書院でしかお話はされていないともとれます。

また、先生は自分を磨くために勉強をされておりますが、卦の表すとおり自分から進んで教えることはなかったのかと思われます。ただ、教えを請われれば出し惜しみせずその方のためにできる限りの事をされていたと読み取ることもできます。

先生は、卦の表すとおり、謙虚で請われれば誰にでも惜しみなく自分の学んだ事を伝えられた素晴らしい方だったと思います。

この、素晴らしい藤樹先生の教えを誰にでも（子供にも大人にも）わかりやすく伝えていきたいと思います。

高島藤樹会の活動

藤樹人間学塾…
藤樹思想を学び考え実践する

塾長　田中　清行

「藤樹人間学塾」では、藤樹先生の著書を中心に思想を学ぶとともに、時事問題と組み合わせて皆で議論しながら考えを深め、日々の生活の場で実践することを目的に毎月開催しています。本稿ではその模様をお伝えいたします。

八月、第百十七回藤樹人間学塾を開きました。参加者は八人でした。

今回は『中庸解』第二六章の後半。大意を次のように話しました。

「天地の道」は、至誠の道であり、純一至善である。これは、大宇宙と同義である。だから広く、深く、高大で、光明で、悠遠で、長久。目に見えないが厳然として存在する大いなるはたらきである。

いのちの基本は呼吸である。人が至誠であればやむことがない、誠の心が大事と説明しました。

参加者からは「目に見えない力を感じることができれば、健康や幸せに結びつく可能性が高まってくると思った」、等の意見、感想をいただきました。

十月、第百十八回人間学塾を開きました。参加者は十一人でした。

今回は『中庸解』第二七章の上段です。大意を次のように話しました。

「聖人の道は大宇宙と軌を一にしている。聖人はなかなか現れないが、大宇宙は聖人の現れるのを待って、大いなる力を発揮する」

二千五百年～二千年前に釋迦、キリスト、孔子という三大聖人が現れ、後世の精神世界にはかり知れない影響を与えました。



三大聖人をはじめ多くの聖人が現れなかったら、人類は、愛や慈悲、思いやりなどの優しい心の大切さを知ることなく、戦争に明け暮れてとっくの昔に消滅していたことでしょう。今、こうして聖人の尊い教えを学び、お互いに一歩ずつ実践していきましょう、と述べました。

参加者からは「体認するためには、行動が重要だと改めて思った。行動のためには、まずはこの塾に参加することは大きな意義があると思った」等の意見、感想をいただきました。

十一月、第百十九回人間学塾を開きました。参加者は七人でした。

今回は『中庸解』第二七章の中段です。大意を次のように話しました。

「故に学者・教養人は、学問の本然である徳性を尊んで知識と徳を磨く。この徳性は広大なもので本来、天とつながって高明であり、利己心を取り去ることにより中庸の境地に至る。陰徳を十年、二十年と続けてようやく徳のある人になれるということでしょう、と述べました。

そして大谷翔平選手の超進化の話をしました。・・・。なかなか大谷選手の真似をできるものではありませんが、私たちが「有限の人生をいかに生きるべきか」を考える時に、大いに参考になると思うと述べました。

参加者からは「あの大谷選手にも苦しい時があって、それを乗り越えてきたというお話を聞いて、私も困難があったがそれを乗り越える力を得た」等の意見、感想をいただきました。

十二月、第百二十回人間学塾を開きました。参加者は十一人でした。

今回『中庸解』は、第二七章の下段で最終です。大意を次のように話しました。

「教養人は徳性を尊ぶゆえに上の地位にいても偉そうにせず、下の地位になっても無駄な反抗はせず、道理の通る時世であれば互いに志を立てて徳のある行動をし、道理が通らない時世であれば自分の身を修めて時節の到来するのを待つ。詩にも言われている。良知の本体の明が大宇宙とつながっているその身体を守ると」。

この節は人道を説いているので、聖人の具体例として『代表的日本人』があり、それについて、「致知」で堀義人氏と数土文夫氏が対談しているものを紹介しました・・・。

また同じく「致知」に掲載された田坂広志氏の「いまを生きよ、いまを生き切れ」を紹介しました・・・。

私たちは有限の命をいただいて、生かされています。だから「生きているだけでも言葉に尽くせないほど有り難い！」という感謝の心と「逆境でも自分には克服できる力がある」という絶対肯定の精神をもって一日一日を大切に生き切りましょうと述べました。

参加者からは「改めて生きていることに感謝しながら一日を大切に生きたいと思った」、等の意見、感想をいただきました。

人間学に関心のある方は是非お越しください。心からお待ちしています。

藤樹人間学塾　今後の予定

二月五日（土）、三月五日（土）、四月二日（土）、五月七日（土）

■時間　（原則）十五時～十七時

■場所　（原則）安曇川公民館

ひじりの声　上田　藤市郎

人間の生命や経済活動、移動に大きな行動変容をもたらす感染症に世界各国が取り組む中で新しい年を迎えた。各国の政治、医療、福祉の状況が報道されて、この難関への現状が見えやすくなった。さらに各国が政治体制や主義主張の違いを越えて協力し支援しあう必要性が高まった。人類の共存共栄が再認識される事態である。

かつて、カルカッタのマザーテレサ修道女は、「愛の反意語は憎しみではなく、無関心なのだ」と明言された。他国の人々が貧困、飢餓、虐待の窮境にあるとき、異を唱えたり支援しようとする声に対して「内政干渉」として拒否する国がある。我々は要らぬお節介をやめて放置すべきなのだろうか。

藤樹先生が求めた孟子の教えに人が生まれながらに持っている四つの心（四端）、「かわいそうに思う心、悪を憎む心、控えめの心、物事の是非を見きわめる心」がある。我々は、人によってその強弱はあるものの、本来見て見ぬふりができないのである。放っておけない気持ちをもっている。陽明学では、この気持ちを実行に移すことが大切とされるが、実践にはまた様々な困難が予想される。身の危険が及ぶこともある。しかし、「無理をせず、他の人々と力を合わせて自分にできることからやりなさい。」が、先生の声だろう。

『藤樹先生の孝について』
～ユーチューブ発信の経緯など～

学習委員会　保木　隆

高島藤樹会は、「温かくて深い、近江聖人中江藤樹の「孝」の思想を高島から全滋賀へ、全国へ、全世界へ広める」をビジョンに、六つの委員会に分かれ顕彰へ取り組みを進めています。誌面をお借りして、この度ユーチューブのアップに至った学習委員会の取り組みを紹介します。

学習委員会は藤樹人間学塾が主立った活動で、これまで『翁問答』や藤樹先生の原著を京都大学の西晋一郎先生が通釈された『孝経啓蒙』、『中庸解』等と読み進めてきました、そのことが今回の取り組みの素地になりました。

その西先生の短編「中江藤樹の学徳」の中に、以下の記述があります。

「藤樹先生は純粋無雑の君子人、成育過程で自然に徳を備えた人、其影響感化の力は最も普遍的で動かされざるものはない。また、藤樹先生の孝の説は『我が国道徳の絶対的真理』である。太虚とか未発とか寂然不動とかの言葉で指示された孝は、一面慈愛、一面知恵として現れる旨を簡明に説いているいわば孝の三位一体の説示である。」と。

私の理解の範疇を超えている藤樹先生の「孝」についての端的な論述であります。ＳＮＳを使って、これを誰にでも伝わり易い形で少しでも紹介出来ないかというのが、学習委員会のいわば命題でした。

そこで、「孝」を直接取り上げるのではなく、そこに至る道程を少年期、青年期、帰郷後小川村での学問への情熱、生き方の紹介を入れその経過の中で「孝」を起承転結の四部構成で浮かび上がらせるように考えました。

学習委員会は、定例の理事会時と二回程度人間学塾の後に設け、方針、発信内容と方法について協議を重ねました。ようやく令和三年春頃には素案ができ、発信原稿の作成と分担、参考図書等を決めました。委員それぞれが仕事、用務をかかえていましたが、何とか草稿を五月末頃に仕上げることが出来ました。委員には大津市在住の方もおられ、遠方にもかかわらず精力的に取り組んでいただけました。



参考図書としては、上記の著作と松下亀太郎先生執筆の『物語　中江藤樹』、城島明彦訳の藤樹先生『翁問答』、中江藤樹記念館編『中江藤樹入門』を活用しました。

特に、『物語中江藤樹』は藤樹先生の生涯を生き生きと描いてあることで役立ちました。



孝経石碑

しかし、コロナ第五波等で委員が出会えず、夏季は原稿の手直し、発表練習を各自で行い、撮影は秋にずれ込みました。カメラに慣れない身ですので予行演習を経て、本番は十月半ばに何と五時間を要しました。

発声指導、撮影、編集、映像化に企画広報部の深川様には大変お世話になりました。

内容的にあくまでも市民手作りのもので学術的な批判に耐えるものではありませんが、藤樹先生の考え、学問へのひたむきさ、孝の思想の概観は表せたのではないかと思っております。各委員が真剣に取り組みましたが、内容、表現等反省点も多くご容赦をお願いします。本会のＨＰからユーチューブへアクセス出来ますので、是非視聴いただき改善点等をお教えいただけますと幸いです。

中江藤樹先生が精神的な支柱となり本市が「おもいやりのあるまち」として、先ず県下や全国に知れ渡るよう、今後も微力ながら尽力していきたいと思います。

「藤樹紙芝居のDVD化とそれに伴う指導案の作成・配布」

飯田　典子

平成二十年（二〇〇八年）の中江藤樹先生生誕四〇〇年を記念して、前年の平成十九年（二〇〇七年）より、高島藤樹会教材委員会（現、思想普及委員会）では、藤樹先生の教えや遺徳を紹介する紙芝居を作成してきました。現在では十八作品が完成しています。紙芝居は十八作品全て、高島市内の保育園、幼稚園、こども園、小学校、中学校や図書館等約五十施設に寄贈され、お話は当該委員会のボランティアの話し手によって上演されていました。

しかしながら、話し手の数に限りがあることや話し手の高齢化と共に、上演の機会があまりなくなってきました。紙芝居を通して、藤樹先生の教えや遺徳を広く学ぶ方法を探ってまいりましたが、このたび紙芝居の絵に声を録音してDVD化することで、より身近な方法で多くの市民に親しんでいただくことにしました。

今後は、高島藤樹会のビジョンである「温かくて深い、近江聖人中江藤樹の孝の思想を高島から全滋賀へ、全国へ、全世界へ広める」目標のもと、音声付き紙芝居を、各種学校はもちろんのこと、市内の道の駅や中江藤樹記念館、良知館等の公共施設にも設置したいと考えています。そこで、まず作成した紙芝居十八作品の中から、中江藤樹の「孝」の思想を子どもたちに分かりやすく説いている代表的な作品の「車が田に落ちた」「そばやのかんばん」、「馬方又左衛門」、「大野了佐を教える」、「志を立てる」、の五作品を絵に合わせて台詞を録音し、音声付き紙芝居としてDVDに編集する作業を進めております。具体的な作業の手順は以下の通りです。



①録音準備

録音の会場として、高島市内の安曇川公民館の遮音性がある部屋で、録音用機材を準備します。また、ボランティアグループ人形劇団「あっぷりけ」や高島市民劇団「つばめ」が担当作品を分担し、配役の決定や台詞の声を紙芝居の絵に合わせる作業をします。

②録音

紙芝居の台詞は、基本的に高島の地元の言葉遣いや抑揚で表現するようにしていますが、教えを説く場面では高島の地元の言葉遣いを残しつつ、全ての人にとって平均的かつ聞きとりやすい表現にします。また、目の不自由な方やお年寄りの方にもお話の内容を理解してもらえるように、登場人物によって声色を変化させたり、感情を込めて話したりしていただくことで、紙芝居のクオリティを高めます。

③編集

紙芝居の絵に合わせて録音した音源を専門の方にお願いして編集作業をし、DVD化します。

④指導案作成

音声付き紙芝居の大きな役割の一つは、現代を生きる子どもたちに、孝の精神が基底にある道徳教育を行う際の一助にすることです。従って、四十五分ないし五十分の授業で音声付き紙芝居を使ってどのような授業を展開するかの指導案を作成し、DVDに添えます。藤樹会の元教員が指導案の作成を担当します。

以上のような手順で作業を進めてまいりましたが、現在のところ「車が田に落ちた」、「そばやのかんばん」、「馬方又左衛門」の作品の録音が完了しております。今年度末までに全ての作品を完成させられるよう、鋭意努力してまいりたいと思います。

追記

このたび二〇二一年度未来ファンドおうみ助成事業に申請をしましたところ、本委員会の趣旨が認められ、助成金を頂く運びとなりました。多方面の方々からの期待に応えられますよう、これからも精進してまいります。



「藤樹かるた」の紹介②

（企画広報委員会）

（はじめに）

高島市の郷土の先哲として敬愛する中江藤樹先生の生誕から四〇〇年を迎えます。

先生の尊い学徳や生き方は、この長きにわたってもなお、多くの人に継承され、今の教育にも生かされています。

今回、先生の生誕四〇〇年を迎えるに当たって協賛事業として「藤樹かるた」改訂版を作成しました。藤樹かるたは昭和五十八年三月に安曇川町教育委員会から刊行され、長く親しまれてきましたが、すでに絶版となっていましたので、この四百年祭を機に改訂版として、二十五年ぶりに再び刊行することができました。

小学生や幼児の皆さんにも親しまれる絵柄、よく理解していただける内容にと心がけて改訂いたしました。

このかるたで楽しく遊んでもらうことで先生の学徳や求道の生涯の一端にふれていただくことを心から願っております。

平成二〇年（二〇〇八年）三月

藤樹かるた制作委員会



（かるたと解説）

り　良知を知り　行い正し　徳を積む

致良知、良知に致るは、心を修める根本である。藤樹先生は、人は誰でももって生まれた良知磨き、良知の命ずるままに行いを正し、徳を積むことが大切であると考え、自らもこの通りに努力された。



ぬ　盗人も　与右衛門と聞き　改める

ある夜、となり村から帰る途中、数人の追いはぎに襲われた藤樹先生（与右衛門）は、賊に対して、互いに名を名乗ろうと言った。先生がまず名乗ると、賊はその名前を聞いてたいへん驚き、もう二度とこのような悪いことはしませんと謝った。



る　留守の間に　何も告げずに　酒三升

大洲を脱藩して小川村に帰ってきた藤樹先生は、生活のために酒を売ることにし、門人たちと勉強中は無人販売をされた。鴨祭りの日にごんずわらじにがまはばき（※）の見知らぬ人が酒三升を代金も支払わずに持ち帰ってしまった。先生は、このことを売上帳に書いておられる。この人はまもなく代金を払いに来て、謝っている。（売上帳には「ごんずわらじにがまはばき 知らぬお方に酒三升しかもその日はかも祭り」と記されている。



※「ごんずわらじにがまはばき」

・ごんずわらじ：紐を通す輪と紐を布で作ったわら草履

・がまはばき：膝下を保護するガマ製の巻物（膝を巻く物）

わ　若いころ　孔子さまだと　からかわれ

藤樹先生が二十二歳の時、ある友だちの家へ行くと、同じ大洲藩に仕える荒木という武士が来ていて「孔子さまが来られた」と大きな声でひやかした。先生は、わたしが学問に励むことをばかにして言ったのであろうと思われ、ひどく立腹して厳しく注意された。



か　限りなく　良知を照らす「徳本堂」

藤樹先生が亡くなられても、先生の偉大な学徳と良知に生きられた生涯は、長く藤樹書院とともに受け継がれ、その教えは今もなお生き続けている。光格天皇が先生の遺徳を称えて、藤樹書院に対し「徳本堂」という号を下された。（一七九七年　寛政九年）



よ　よく見せて　枕をはずす　病の床

藤樹先生が亡くなられたのは、慶安元年（一六四八年）八月二十五日である。この日の朝、様子を見に来られたお母さんを心配させないようにと、ぜん息の身には辛いのに、重ねた枕を一つはずし、低くして見せ「今朝はだいぶ良いようです」と言われた。お母さんはそれを聞くと安心して部屋を出て行かれた。しかし、それからまもなく先生は息を引き取られた。四十一歳の若さであった。



た　称え合い　みんなで仰ぐ　藤社（ふじやしろ）

大正十一年、高島郡内の人たちが県内外の志ある人々と力を合わせ、心を一つにして郷土の偉人、藤樹先生を神として祀り、長く先生の徳を称え、仰ぐため、壮大な神社を建てるという事業を成し遂げた。例祭は毎年九月二十五日に行われている。



れ　礼儀作法　小さい時から心がけ

藤樹先生は、子どものころから礼儀正しく、落ち着きがあり、挨拶もしっかりされていたと伝えられている。



そ　そばやの看板　練習した　字は　箱一杯

ある日、そばやの主人が藤樹先生を訪ね、看板の文字を書いてくださいと頼み、先生は快く承諾した。数日後、出来上がった看板を主人は持ち帰り、店に飾った。ところがしばらくして加賀の殿様がそば屋に立ち寄り、見事に書かれた看板を一目見て「譲ってほしい」と言われた。主人は看板を譲り、たくさんの礼金をもらった。そこで、もう一枚書いてもらおうと頼みに行くと、先生は半びつ一箱に一杯入った看板の文字の下書きを見せられた。そばやの主人は、たった一枚のために、先生がどれほど心をこめて練習をされていたかを知り、簡単に手放したことを、先生にお詫びした。



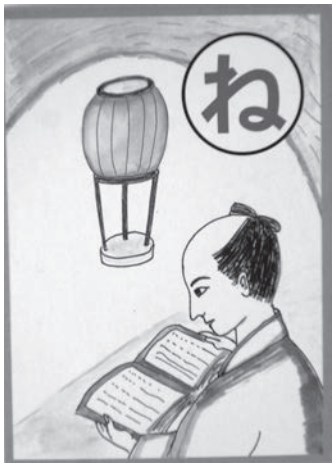
つ　積み上げた　徳は故郷で　花開く

良知を磨き、行いを正しくすることにつとめられた藤樹先生の徳は、ますます高まり、小川村を中心に多くの人々の間にその感化や教えが広まっていった。



ね　寝静まる　夜更けを待って　学問し

武士が強い力を持っていた江戸時代初期は、学問より武芸に励むことを大事にしたので、学問は弱いもののすることだと思われていた。学問も大事なことだと考えておられた藤樹先生は、毎夜、みんなが寝静まってから遅くまで勉強された。



な　何遍も　練り直し　「翁問答（おきなもんどう）」

藤樹先生は「翁問答」と言う本を書こうとして、なんべんも読み返しては、書き換えて、自分が納得するまで書き直しを続けられた。



ら　落馬して　思い新たに　技みがく

ある時、藤樹先生は小林という馬術に優れた武士と馬のことについて話をしていて「馬くらいは練習しなくても乗れる」「いや、馬を扱うには練習が必要だ」という議論になった。先生が乗ってみると、思うように馬は動かず、ついには振り落とされてしまった。その時、先生は自分の考えが間違いであったことを謝られた。



む　村人は　教えを受け継ぎ　祭りごと

「近江聖人」と仰がれるほどの藤樹先生の優れた教えや行いを、後の世へいつまでも伝え、称え、そして鑑としようと、小川村の人々を中心に、先生をしのび、祀る行事が今日に至るまで続けられている。（書院鏡開きと講書始め藤樹忌祭典、藤樹神社例祭、常省先生祭典など）



う　馬の鞍　はずせば飛脚の　忘れ物

川原市（高島市新旭町安井川の川原市）の馬方又左衛門は、その日のお客（加賀の飛脚）が馬の鞍に忘れた大金二百両を、二十六キロも離れた榎の宿（大津市和邇）まで届けに行った。その時、客からお礼にと差し出されたお金を受け取らずに帰った。この正直な馬方は、藤樹先生の教えを受けていた一人であった。



の　後の世に　近江聖人と　称えられ

良知をみがき、身を修め、行いを正しくすることに努めれば、人は誰でも聖人になれると悟られた藤樹先生は、それを目指してその通り、生き続けられたので、後の世の人々は、先生を「近江聖人」と称えるようになった。



藤樹かるた制作委員会委員
足立清勝・飯田典子・石黒紀代子・
北川暢子・清川貞治・高谷美智子・
山本義雄
（五十音順）

（次号に続きます）

藤樹記念館通信⑫

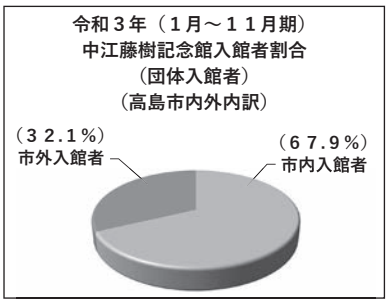
『Withコロナ時代の中江藤樹記念館の在り方 ～入館者の状況～』

武田　基裕

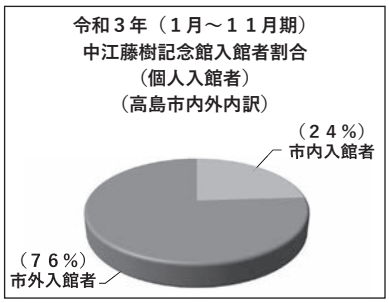
一昨年末からのコロナ禍により、本館の入館者数も減少はしましたが、高島市や滋賀県内、近畿、全国の熱心な中江藤樹ファンの方々の訪問もあり、おかげさまでそれほど大きな減少にはなっていません。昨年の四月から五月、今年の八月から九月にかけてはコロナ禍による休館措置を行い、入館を希望される方々から大変多くのお問い合わせをいただき、ご迷惑をおかけしました。感染拡大予防のための措置であったことをご理解いただければと思います。

本原稿を書いています十二月中旬現在は通常開館（九時～十六時三十分）していますが、十一月から三月末までの予定で屋根の全面張替え工事をしており、ご迷惑をおかけしています。多少の騒音が出る場合もありますが、見学に支障のない程度におさえていただいています。ご理解とご了承の程よろしくお願い致します。

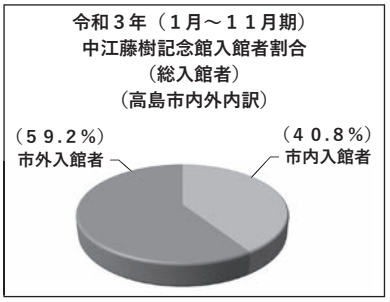
さて、本施設の入館者概要のグラフを見ていただきますと、改めて高島市内外から大変多くの方が中江藤樹を慕われて入館くださっていることが伝わります。団体入館者数で市内の割合が高いのは小中学生の方が校外学習の一環で訪問くださるためで、個人入館者数では四人中三人が市外の方々が占めています。



コロナの影響で都心と比べますと、密になりにくい自然豊かな地であること等の理由からか市外、県外から大変多くの中江藤樹ファンの方が訪問くださいます。東京を中心とする関東の方々、愛知を中心とする中部、東海地方の方々、その他にも北陸、四国、九州方面から訪問くださる方も多く、職員一同嬉しく思いながら、遠方からの訪問で満足して帰っていただけるよう藤樹のことを学んでいただいています。また、入館者の方々と、可能な範囲でできる交流を行っています。



まだまだ予断は許さない状況ではありますが、感染予防の対策はしっかり継続しています。以前に比べますと来館いただきやすい状況となっていますので、市内の皆さまもお時間がございましたら是非ともご来館いただき、高島市の先達であります中江藤樹のことを、より以上に知っていただけますと幸いです。



中江藤樹記念館の住所は安曇川町上小川六十九番地で、道の駅藤樹の里あどがわから東側へお車で一分、徒歩三分程となります。入館料は高校生以上の方は三〇〇円、中学生以下の子どもさんは無料です。是非ともご家族、お友達お誘い合わせの上、ご来館くださるようご案内いたします。

近江聖人中江藤樹記念館
Tel＆FAX〇七四〇（三二）－〇三三〇

賛助会員一覧

ご協力ありがとうございます。

〇ウェストレイクホテル可以登楼
〇税理士法人 淡海総合会計
〇大津公証人会　白髭博文
〇大溝工業 株式会社
〇株式会社 大山建設
〇岡本アルミ建材 株式会社
〇株式会社 オミゾ
〇川島酒造 株式会社
〇川島織布 株式会社
〇株式会社 Ｇｒｏｗ－Ｓ
〇有限会社 桑原組
〇有限会社 宏和商事
〇税理士法人 小畑会計事務所
〇佐治タイル 株式会社
〇株式会社 澤村
〇株式会社 シグマックス
〇有限会社 白浜荘
〇新旭電子工業 株式会社
〇杉橋建設 株式会社
〇ソエダ 株式会社
〇高島鉱建 株式会社
〇田中マネジメント事務所
〇株式会社 ＴＡＤコーポレーション
〇鉄屋商事 株式会社
〇寺子屋まなざし童心塾
〇有限会社 天平フーズ
〇株式会社 戸井薬局
〇とも栄 藤樹街道本店
〇株式会社 ナカサク
〇ナカショウ 株式会社
〇株式会社 中田運送
〇中村印刷 株式会社
〇株式会社 中村測量設計
〇ニッケイ工業 株式会社
〇八田建設 株式会社
〇富士包装紙器 株式会社
〇戸次会計事務所
〇有限会社 馬場塗装
〇株式会社 ホリゾン
〇株式会社 ヨシダヤ
〇株式会社 リンクス
〇有限会社 綿庄食品店

（五十音順）